

記者発表資料

平成24年度 京浜港湾事務所の事業概要について

京浜港湾事務所では、産業の国際競争力強化のため国際戦略港湾である横浜港や川崎港において効率的な荷役や輸送コスト削減を目指し、コンテナターミナル及び臨港道路等の整備を行っています。

平成 24 年度の京浜港湾事務所の主な事業概要は以下のとおりです。

横浜港においては、南本牧ふ頭地区で世界標準となる水深16m級の岸壁を有する新たなコンテナターミナルの整備を行い、本牧ふ頭地区では、コンテナ船の大型化に対応するための岸壁の増深・耐震改良を実施します。

また、南本牧ふ頭、本牧ふ頭及び大黒ふ頭の各ふ頭間を結ぶ臨港道路を整備し、各ふ頭間のコンテナ輸送の効率化を図るとともに、南本牧ふ頭と背後の高速道路ネットワークとを臨港道路で連絡することで内陸部への交通体系の強化を図ることを実施していきます。

川崎港においては、東扇島地区の物流機能高度化に伴い増大する交通量に対応するため、東扇島地区と内陸部を結ぶ臨港道路の整備を行っていきます。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川県政記者クラブ
神奈川建設記者会、横浜海事記者クラブ
川崎記者クラブ

問い合わせ先

所属 国土交通省 関東地方整備局 京浜港湾事務所

氏名	副所長	藤澤 孝夫	(内 102)
	第一工務課長	近藤 隆道	(内 300)
	企画調整課長	三上 晃	(内 330)

電話 045-226-3765

FAX 045-226-3754

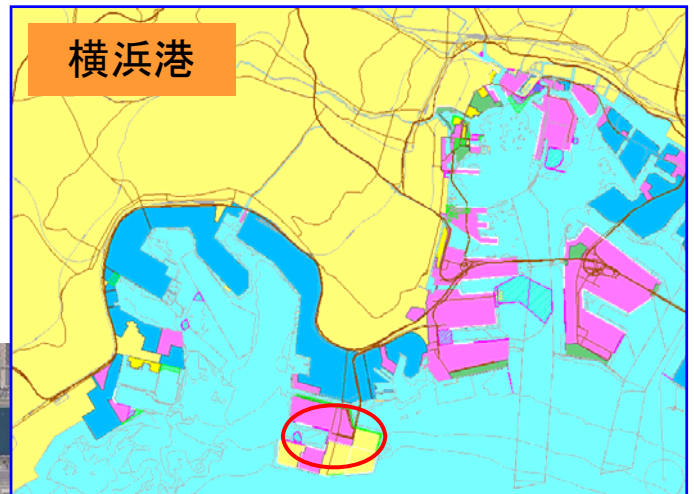
横浜港 南本牧ふ頭地区

〔岸壁(-16m)(耐震)(MC-3)〕

平成24年度事業費:約38億円

増大するコンテナ貨物量やコンテナ船の大型化に対応するため平成26年度供用を目指し、南本牧ふ頭で3つ目となる我が国最大級である水深16mの岸壁を有するMC-3岸壁(耐震)の整備を進めています。

平成24年度は、岸壁本体の上部工等の工事を行います。



横浜港 本牧ふ頭地区

〔岸壁(-16m)(耐震)(HD-4, 5)〕

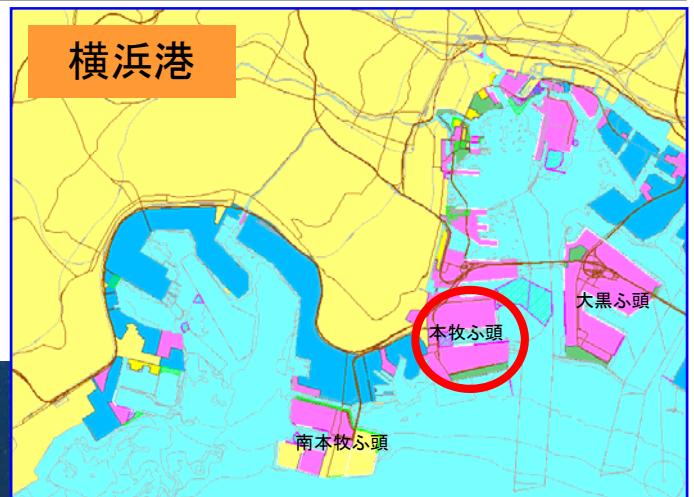
平成24年度事業費:約72億円

本牧ふ頭は、横浜港で最初のコンテナふ頭で、全体のコンテナ取扱量の約6割を取扱う我が国でも枢要のコンテナふ頭です。D突堤は供用開始から40年近く経過しており、コンテナ貨物需要の増大及びコンテナ船の大型化に対応するため、施設の再整備を順次実施しています。また、大規模地震発生時の幹線貨物の輸送拠点としての物流機能を維持するため、ターミナルの耐震改良を行います。

平成24年度は、以下の工事を行います。

HD-4: 既存岸壁撤去、地盤改良、鋼板セル及びアークの製作・打設等

HD-5: 浚渫(増深改良)



横浜港 南本牧～本牧ふ頭地区

〔南本牧ふ頭～本牧地区臨港道路整備〕

平成24年度事業費：約18億円

南本牧ふ頭は、横浜港のコンテナ取扱量の約3割を占める重要なふ頭です。本事業は、今後、①コンテナ取扱の主力となる南本牧ふ頭と本牧ふ頭を臨港道路で連絡することで大黒ふ頭とも国道357号線で結びふ頭間のコンテナ輸送効率化を図るとともに ②南本牧ふ頭と背後の高速道路ネットワークを直結することにより、横浜港の集荷環境を強化します。

平成24年度は、橋梁部の仮設栈橋・栈台の築造、橋梁下部工等の工事を行います。



川崎港 東扇島地区

〔東扇島～水江町地区臨港道路整備〕

平成24年度事業費:約18億円

川崎港東扇島地区は、川崎港で陸揚げされる貨物のみならず、京浜3港の連携の中で東京港・横浜港利用の貨物の物流基地としての役割も果たしています。今後、東扇島の物流機能の高度化によりますます物流拠点としての役割が増すため、東扇島と背後を結ぶ交通体系の強化を図るとともに、東扇島地区のアクセス道路のリダンダンシー確保を図ります。

平成24年度は、詳細設計、用地補償等を行います。

